

古代史の海 改題

古代史の海

第70号 2012年12月

【巻頭言】

- 対馬に行く……………半沢英一
 蘇我氏と『金光明経』……………河越尚司
 武光誠『テラスで読む邪馬台国の謎』を読む……………中村 修
 「邪馬台国論争」の新視点と新視野……………山中光一

会員ひろば【小休止】

- 広瀬勾原の早衣……………渡部正路
 アンデス通信②③……………市木尚利
 新刊紹介 中村修『乙訓の原像・続編』……………上遠野浩一
 『乙訓の原像・続編』の感想……………中村 修

- 方位論再考Ⅰ ―拙稿へのコメントに触発されて―……………尾関 章
 「訛」と「誤」のあいだ……………長野 靖
 「ワニ考」追補……………野田昌夫

卑弥呼の郷? 齊明天皇朝倉宮伝承地

- 朝倉市を訪ねて……………河野宏文

「古代史の海」の会

「ワニ考」追補

野田昌夫

『古代史の海』六九号掲載の「ワニ考」について、その後、古代史関係の諸先生やその他の方々から、賛意を表するお便りや、激励のお言葉などを頂戴し、大変有り難く感謝しております。

前回の「ワニ考」発表後、シャチとサメ(＝フカ)について、それぞれの生態に詳しい水族館にご教示を仰いだ結果、次のような回答をえました。

これによれば、「ワニ考」の細かい点については多少手直しが必要な部分もあるものの、「ワニはどう猛な水中動物を意味する」という基本的な考え方については変更の必要がないことが確認できました。

(1) シャチについて・その一

千葉県・鴨川シーワールド(現在、我が国で唯一のシャチのパフォーマンス・ショーをおこなっている水族館。)

シャチは集団で鯨を襲って、狩りをする。このことは、シャチを知っている人達の間では常識である。

(2) シャチについて・その二

名古屋市・名古屋港水族館(ここでもシャチを飼育し、公開トレーニングをおこなっている。)

「ワニ考」では、シャチが浜辺に乗り上げてアザラシを捕食する話を記しているが、おそらくこれはアルゼンチンのバルデス半島の一部の浜辺近辺に棲息するシャチのいくつかの群れが、オタリアというアシカの仲間を浜辺に乗り上げて捕食することを指しているものと思われる。これはアルゼンチンの一部のシャチに見られる行動であって、世界中のシャチがこのようなことをしているわけではない。

壱岐の近海にはオキゴンドウが多く生息している。

オキゴンドウはシャチに近縁の小型鯨類で、別名をシャチモドキという。

英語名を false killer whale、学名を Pseudorca とはいうが、いずれもシャチモドキという意味である。

オキゴンドウは主として魚を捕食するがときにはイルカ

を襲うこともある。そしてごく稀にはザトウクジラやマッコウクジラという大型のクジラを襲うこともあるという。

【3】サメ(フカ)について

沖縄美ら海水族館(我が国で最大の水族館。色々な種類のサメを多数飼育しており、この点でも日本一。)

「サメ」と「フカ」とは同義語である。

シャチは、集団で鯨を襲って狩りをするが、サメについては、そのようなことを聞いたことがない。

おそらく死んだ鯨などに食いつくということはあるかと思うが、健康な鯨を襲うということはない。

サメの中でも最もどう猛とされるホホジロザメがアシカなどをとって食べるということがあるが、鯨となると、これをとって食べるということはないと思う。

なお、下図に壱岐国風土記でワニがクジラを追いつんだ湾を示します。

【注】

山尾幸久先生から拙稿についてお便りを頂戴し、日本古典の「ワニ」はサメだけではなくシャチや爬虫類のワニを含む「どう猛な水中動物」を指すことはほぼ確かな証明を得たと思います。とのことでありました。

私にとりましては、このようにまで言ってくださることは、望外の喜びであります。

また、神代記はワニを「佐比持ちの神」としていますが、

【第18期会費前納のお願い】

本誌は科学の大衆化のために、研究者とアマチュアを結ぶことを目指している雑誌です。

本誌は会員制で、期会費(購読料)は一年分四冊で年四千元(含送料)です。バラ売りの場合は一冊一五〇〇円です。69号から第18期に入っています。本誌は会費前納制を目指していますので、第18期(第69・72号)会費の納入を宜しく願っています。その際些少なりともご寄付をいただけると有難いのです。封筒宛名の後ろに書いてある数字が会費の納入状態を表しています。「72」と書いてあれば、第18期前納済みです。

購読を中止される方は、その旨を中村修まで郵便(葉書など)またはメールでご通知下さい(電話・口頭不可)。購読中止の連絡のない限り、一期(一年間)に限り本誌を発送し、請求書を送ります。

本誌を新たにお求めの方は振り込み用紙に住所・氏名・電話番号・「18期会費」と明記し、会費(購読料)四千元を本号奥付記載の送金先(郵便口座)へお振り込み下さい。第18期途中で入会された場合、第69号に遡って『古代史の海』をお届けいたします。

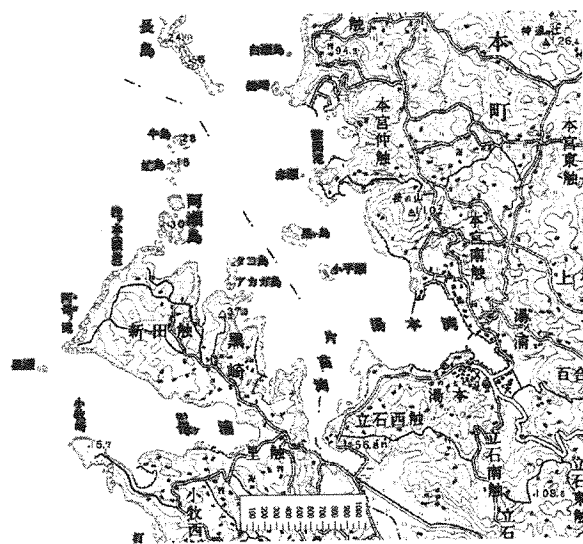
これを機会に、研究者・アマチュアを問わず新規に購読の方をお待ちしています。

編集・経営委員会代表 中村 修

サヒは古い朝鮮語と共通する言葉で威力ある鍛冶物でしよう。「鍛冶の刃物のような鋭い歯をもつどう猛な水中動物」と言えませんか。とも書かれておりました。

これは、山尾幸久『日本古代王権形成史論』岩波書店一九八三年一三三―一三四ページの注にある族称ワニに関する先生のお説を、今回の私の所論と組み合わせる複合化して戴いたことに他ならず、厚く御礼申し上げる次第であります。

クジラを追いつんだ湾



壱岐市勝本町 旧鯨伏(いさふし)村

古代日本海文化改題

古代史の海 第70号

2012年12月20日発行

定価 1500円

会費・年間(4冊) 4000円(送料込み)

編集顧問 白崎昭一郎

編集・経営委員会(代表 中村 修)

中村 修・半沢英一

スタッフ 中井かをり・河野宏文

発行 「古代史の海」の会

〒615・8194

京都市西京区川島栗田町22 中村修方

TEL 075・392・3743

メール kodashinouni@yahoo.co.jp

郵便振替口座

00920・0・179917 「古代史の海」

ウェブサイト

<http://www.k5dion.ne.jp/~pan/kodashinouni/>

制作協力 株式会社ビレッジプレス